

朝鮮國內亂ニ關シ兵員派遣ニ關スル  
方針

右御覽ニ供ス

明治二十七年六月六日

内閣總理大臣伯爵白藤博文

外務省

局甲六

明治三十三年六月二日

内閣書記官

内閣總理大臣

野田

閣下

外務大臣

青木

閣下

閣下

閣下

内務大臣

西園寺

閣下

閣下

閣下

閣下

閣下

邦解國教氏内ニ起リ京城駐在公使館ヨリ乘  
電ニ據ルニ官兵數ニ敗レ教氏益猖厥ヲ窮ムルノ  
勢アリト云將來教氏京城又ハ其他ノ日本人居留  
地ニ侵入スルコト無キヲ保テ難ク故テ公使館及四  
氏ヲ保護スル為ニ兵員ヲ派遣スルノ必要アリ  
天津條約第三款ニ依ルニ朝鮮國交教又ハ重大

事件アリニ當リ日支西回又一回兵ヲ派スルトキハ

行文知照スヘシトノ明文アリ故ニ出兵ニ當リ清國ト

時機ヲ生スルモ料ルハカラス

往復關係スヘキノ事ハ迅速ノ

事ニ係リ我カ兵ヲ以テ我カ國民ヲ保護スルヲ

急ルヘカ弁ルカ為ニ清國ト聯合派兵スルヲ待タズ

條約ノ明文ニ於テ行文知照シ直チニ出兵スルヲ適當

トス

京師駐在公使館杉村書記官ヨリノ未電ニ依レハ

朝鮮政府ハ已ニ應援ヲ請回ニ求メタリト云ヘリ清國

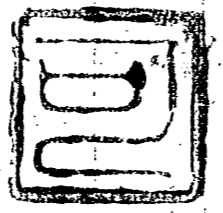
ノ之ニ應シタルヤ否ヤハ未タ告知ヲ得ズト雖將來

清國モ其ノ兵員ヲ派遣シ兩國ノ軍隊或ハ聯合

ノ衝ヲ爲シ或ハ朝鮮政府ノ要求ニ由リ臨機ニ

應援防戢スルノ必要ヲ生スルモ亦料ルヘカラス此亦  
豫メ算畫ノ中ニ置カザルヘカラス

今ハ更ニ詳報ヲ得ルヲ待タズ先ツ第一ニ公使彼及  
四民ヲ保護スルノ必要ヲ主トシ機先ニ後ルガ為ニ  
及フダケ速ニ出兵ノ準備ヲ為ス



陸軍少将大嶋義昌朝鮮國派遣

ニ付訓令ノ件

右謹ニ裁可ヲ仰ク

明治二十七年六月七日

内閣總理大臣伯爵藤博文